

「政党との対話」の開催趣旨と進行手順・主たる質問事項

本大会では、国民にとってより豊かな政策本位の対話の環境を促進し、国民に対し政治がより説明責任を果たしていくための環境整備に貢献する一環として、各党の党首をお招きし、対話を行います。各党党首の皆さんとの対話は、「冒頭スピーチ」⇒「質問」⇒「締め括りスピーチ」の順で進行します。

第1. 「冒頭スピーチ」で特に言及いただきたいこと

- (1) 先の通常国会を含め今日までの総括と実績評価について国民にご説明ください。
- (2) 「私たちの国を今後どうしたいのか」という大きな問題意識、基本理念を、党首ご自身の言葉で改めて国民にご説明ください。
- (3) 次の総選挙に向けて、今後、国民に選択を求めていくものは何か。政治の在り方、政権の在り方、政権公約の在り方を含めご説明ください。その際、現在政権を担われている皆さんは、今後の政権運営の課題や政権として実現すべき課題と優先順位・時間軸を中心に、また、野党の皆さんは、政権の構想（政権戦略・政権枠組み等を含む）と重点政策等の準備状況や現時点でのお考えを、ご説明ください。

第2. 主催者との「対話」を通じて議論を深めたいこと

「冒頭スピーチ」でお願いした上記3点を軸に質問と対話を行います。その中で、下記の主たる課題等についても適宜ご質問する可能性もあります。※下記は例示です。

(1) 国の基本政策（例示）

① 外交・安全保障

今後の国際秩序の展望に関する基本認識をお伺いします。関連し、国際紛争解決において今後日本が果たしうる役割や国連等の国際機関の改革、日本の防衛・安全保障政策上の課題（経済安全保障、食糧・資源エネルギー危機管理等含む）について見解をお伺いします。

② 経済社会の健全性と財政・社会保障

将来世代に健全な経済社会を引き継ぐ責任を政治はどのように果たすべきか、見解をお伺いします。20年、30年、40年という時間軸で、国と地方の財政を持続可能なものにしていくために、いま政治は何を決め、何を実行すべきか、見解をお伺いします。

また、国や自治体が個人を支える仕組みとしての社会保障制度の全体像はどうあるべきか。少子化問題に対処するための子育て関連施策、産業構造の変化に対応するための労働市場とセーフティーネットの改革など、長期の目標といま政治が実行すべき改革内容について見解をお伺いします。

③ エネルギー関係

ウクライナ情勢等により、資源・エネルギーの安定供給とコスト増が懸念されています。通常国会では原子力発電所の運転期間を延長可能とする改正法が成立しましたが、今後のエネルギーミックスのあり方や、カーボンニュートラルの実現に向けた行程やGX（グリーン・トランスフォーメーション）の推進方策について見解をお伺いします。

④ 人口減少社会

出生数、出生率の減少が続き、世界最高水準で少子化が加速しています。このままでは、地方消滅から日本消滅となることを危惧します。この弊害は、社会・経済活動の維持を困難にさせるだけでなく、社会保障・地域振興など広範囲に及びます。しかも、出生率が向上しても出生数が改善するまでには、相当な長期間を要します。現下の人口減少についての時代認識と、次世代に引き継ぐべき新しい地域社会像、国土構想をお伺いします。

⑤ デジタル社会に向けた合意形成課題

本格的なデジタル社会の実現に向かうための基本原則や法制度のあり方、リテラシー等の教育改革課題に関し、いかなる国民的合意形成が必要か、見解をお伺いします。

(2) 政治・統治機構改革（例示）

⑥ 国会改革

国会での党首討論（国家基本政策委員会合同審査会）は2年以上にわたり開催されていません。超党派合意なしには改革が進まない国会改革について、とくに、国会審議や討論の充実・活性化・合理化等の観点からどのような取り組みが必要か、見解をお伺いします。

⑦ 官僚の長時間労働是正等

上記⑥との関連で、官僚による国会対応等が長時間労働の要因となっている現状を踏まえ、政府、国会、与野党はそれぞれ、その是正に向け何に取り組むべきか、見解をお伺いします。

⑧ 憲法について

衆参両院の憲法審査会における今後の議論の進め方について見解をお伺いします。また、仮に憲法改正が必要であるとお考えの場合、いかなる論点を、いかなる時間軸と手順で国民に問うべきか、国民的合意形成のあり方について見解をお伺いします。

⑨ 次の総選挙に向けた政策論争の活性化

次の総選挙を国民本位・政策本位のものとするために、各党間または国民と各党との間で政策論争活性化や対話の充実に向けたいかなる取り組みが必要か、見解をお伺いします。